

年 月 日 /

学校 年 組 番 なまえ

2022年5月21日付



山川小で開かれた交通安全教室でドライバーにお礼を促す指導員とお辞儀する1年生＝結城市今宿

横断歩道停車にお辞儀

信号がない横断歩道で一時停止した車に対し、歩行者が「お礼」をする動きが全国で広がり始めている。運転手へのお礼は、日本自動車連盟（JAF）の調査で車の一時停止率が最も高かった長野県の習慣の一つだ。道交法では横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合、車は一時停止する義務がある。法が守られていない現状から横断時の「手上げ」と合わせて周知し、歩行者保護の意識を一層高める狙いがある。一時停止率の低さが課題の本県でも、交通安全教室で指導に取り込む自治体が出始めた。

本県低い停止率

安全教室 児童に指導、効果期待

「車が止まってくれたよ。運転手さんにお礼を言おうね」

4月25日、結城市立山川小の校庭で開かれた交通安全教室。信号のない横断歩道を想定したコースで、指導員の市職員が児童に優しく呼びかけた。

市は本年度、小学1年生向けの交通安全教室で、結城警察署や交通安全協会女性部と連携し、運転手にお礼をする指導に乗り出した。きっかけは、本県の一時的停止率の低さだ。

JAFが昨年実施した全国調査によると、信号のない横断歩道での車の一時停止率で、本県は19%と全国ワースト6位だった。一方、長野県は85・2%で6年連続トップに輝いた。

注目されるようになったのが、一時停止したドライバーに頭を下げてお礼をする習慣だ。

長野県くらし安全・消費生活課の島田博隆課長補佐は、ドライバーにお礼をする習慣は県民に昔から根付いていると説明する。そ

の上で、お礼の効果について「運転手も歩行者もお互い人間なので、お礼をするなどの意思表示は大事。お礼されたらいいことをした気分になるし、次も気を付けようと思えるはず」と話す。

一時停止率トップの同県に倣おうと、宮城、青森など他県でも歩行者が手を上げて横断歩道を渡ることに加え、ドライバーにお礼をするよう促す取り組みが広がっている。

本県では、県警が本年度から同様の取り組みを強化する方針を打ち出した。

道交法38条は、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合、車は一時停止しなければならないと定める。だが、県内では一時停止しない車が多く、歩行者保護意識の向上や一時停止義務の周知のために手上げやお礼といった対策が必要と県警は判断した。

結城市防災安全課の松本修一課長は「お礼されたら運転手は気持ちよく止まれるし、交通マナー向上へ意識も高まるはず」と語る。お礼が広がることによって「一時停止義務の順守が浸透する」といって願っている。

（瀧明沙華）

【問1】 信号がない横断歩道で一時停止した車の運転手にお礼する習慣があるのは、何県ですか？

【問2】 JAF の昨年の全国調査。茨城県は、一時停止率が何%で、全国何位という結果でしたか？

【問3】 お礼をすると、なぜ、運転手が一時停止するようになると考えられますか？



よ
読めない文字は、かざくや、ともだちにきいてみてね